



おんらいず もとおりおひら
恩頼 **本居大平**著

文政10年(1827)頃筆

縦41.2cm 横27.7cm

国学の泰斗といえ、まずは本居宣長でしよう。主著の『古事記伝』は不朽の名著といわれ、未だにその価値は失われていません。一瞥では蟻の巢かと見紛うほどユーモラスな形をした本図は、実は学者宣長の姿を窺うのに、最も簡にして便なる資料です。

「恩頼」とは神などから受ける加護や恩徳の意ですが、本図は宣長が誰のお蔭であの様な偉い学者となったのか、また誰々が宣長先生のお蔭を蒙ったのかと、各々にその人名を列記しています。

最下段の円には、子・孫や主な門人で、すなわちお蔭を

蒙った人たち。その中央の「大平」は最も師に近仕し、養子となり家督を継いだ門人です。学才は凡庸でしたが、人柄は温厚篤実、千人に及んだ門人をよく統率しました。

本図はこの大平が描きました。同じ円の左下の「厚胤」は平田篤胤です。唱えるところの復古思想は、幕末すこぶる全国各地各層に浸透して、明治維新実現の大きな力となったと評されています。

篤胤は虚言を弄して宣長没後に入門。以来何かと波風を立てました。知識はきわめて豊富でしたが、学風は実証主義を旨とする宣長学派から逸



脱、大平も篤胤から厳しく批判されて、両人は親近した間柄ではありませんでした。

本図は大平の宣長観を示すものですが、宣長自身の見解も含まれているとも考えられ、とても興味深い資料となっています。しかしただ一人、篤胤のみが全く枠外に置かれているのは、もちろん大平の嫌悪の情を表すものです。

(天理図書館 岸本眞実)

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>
 ◆平日(午前9時～午後5時半) 土・日・祝(午前9時～午後4時半)
 10月18・26・31日は閉館。
 (本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください)